

## 2 現状の分析と課題

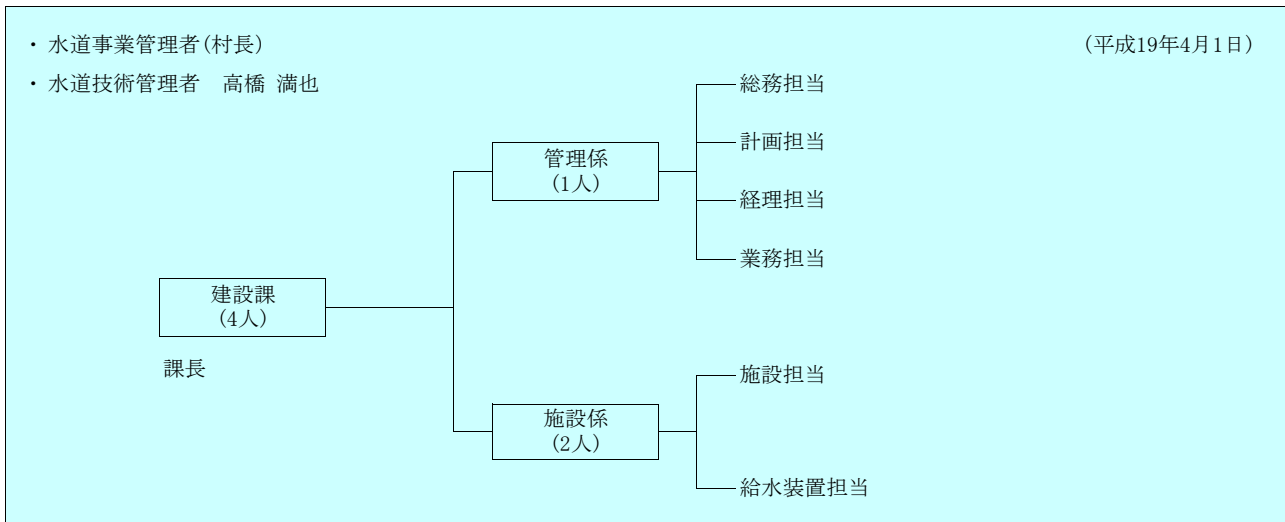
### 2-1 経営の状況

#### (1) 組織体制

宇検村は、村長が水道事業管理者の職務を行っており、水道事業の管理者の権限に属する事務を処理するために建設課を置いています。

建設課は、課長以下合計4名で水道事業の運営を行っています。係は庶務係と維持管理系の2係で運営しており、予算上の人員は1名としています。

#### 組織図



#### (2) 経営成績と財政状態

平成18年度の経営成績と財政状態について、業務指標を使って、公共性、料金、資産状態、財務状況、施設効率、生産性の評価を行った結果は次のとおりである。(表-2)

#### (3) 経営上の課題

現在のところ、営業に係る維持管理費は使用料収入によって賄っており、起債の償還に係る繰入金も基準内で納まっているため、経営状態は良好であるといえる。しかし、今後は、統合簡易水道事業を実施していることから、資本整備に係る経費が増大するものと考えられる。これに伴い一般会計からの繰入金の増加が予想されるが、効率的な施設の維持管理や使用料の見直し等を行い健全化を図る。

表-2 ガイドライン指標を使った経年比較と業務評価

| 項目分類 | 番号                             | 指標                             | 単位  | 算出方法  | 宇 検 村  |        |        | 業務評価 |
|------|--------------------------------|--------------------------------|---|---|--------|--------|--------|------|
|      |                                |                                |   |   | 16年度   | 17年度   | 18年度   |      |
| 安心   | 1001                           | 水源利用率                          | %   | (一日平均配水量/確保している水源水量) × 100                          | 59.9   | 52.6   | 48.6   | ●    |
|      | 1002                           | 水源余裕率                          | %   | [(確保している水源水量/一日最大配水量) - 1] × 100                    | 35.5   | 54.3   | 67.2   | ●    |
|      | 1004                           | 自己保有水源率                        | %   | (自己保有水源水量/全水源水量) × 100                              | 100    | 100    | 100    | ●    |
|      | 1104                           | 水質基準不適合率                       | %   | (水質基準不適合回数/全検査回数) × 100                             | 0      | 0      | 0      | ↓    |
|      | 1115                           | 直結給水率                          | %   | (直結給水件数/給水件数) × 100                                 | 100    | 100    | 100    | ↑    |
|      | 1116                           | 活性炭投入率                         | %   | (年間活性炭投入日数/年間日数) × 100                              | 0      | 0      | 0      | ↓    |
|      | 1117                           | 鉛管給水管率                         | %   | 鉛管給水管使用件数/給水件数) × 100                               | 0      | 0      | 0      | ↓    |
| 安定   | 2002                           | 給水人口一人当たり配水量                   | L/日/人   | (一日平均配水量/給水人口) × 1,000                              | 498.6  | 448.7  | 414.0  | ↓    |
|      | 2004                           | 配水池貯留能力                        | 日   | 配水池総容量/一日平均配水量                                      | 0.76   | 0.87   | 0.94   | ↑    |
|      | 2005                           | 給水制限数                          | 日   | 年間給水制限日数  | 0      | 0      | 0      | ↓    |
|      | 2006                           | 普及率                            | %   | (給水人口/給水区域内人口) × 100                                | 100    | 100    | 100    | ↑    |
|      | 2210                           | 管路の耐震化率                        | %   | (耐震管延長/管路総延長) × 100                                 | 0      | 0      | 0      | ↑    |
| 持続   | 3001                           | 営業収支比率                         | %   | (営業収益/営業費用) × 100                                   | 201.0  | 178.4  | 208.7  | ↑    |
|      | 3002                           | 経常収支比率                         | %   | [(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)] × 100                   | 137.5  | 124.0  | 138.9  | ↑    |
|      | 3005                           | 繰入金比率(収益的収支分)                  | %   | (損益勘定繰入金/収益的収入) × 100                               | 8.5    | 0      | 0      | ○    |
|      | 3006                           | 繰入金比率(資本的収入分)                  | %   | (資本勘定繰入金/資本的収入) × 100                               | 100    | 100    | 49.8   | ○    |
|      | 3007                           | 職員一人当たり給水収益                    | 千円/人  | (給水収益/損益勘定所属職員数)/1,000                              | 42,695 | 37,684 | 36,092 | ↑    |
|      | 3008                           | 給水収益に対する職員給与費の割合               | %   | (職員給与費/給水収益) × 100                                  | 15.3   | 18.3   | 19.1   | ↓    |
|      | 3009                           | 給水収益に対する企業債利息の割合               | %   | (企業債利息/給水収益) × 100                                  | 23.0   | 24.6   | 24.1   | ↓    |
|      | 3011                           | 給水収益に対する企業債償還金の割合              | %   | (企業債償還金/給水収益) × 100                                 | 26.1   | 32.3   | 35.4   | ↓    |
|      | 3013                           | 料金回収率(給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合)  | %   | (供給単価/給水原価) × 100                                   | 125.9  | 124.0  | 138.9  | ↑    |
|      | 3014                           | 供給単価                           | 円/m <sup>3</sup>                                    | 給水収益/有収水量   | 115.8  | 127.1  | 131.8  | ↓    |
|      | 3015                           | 給水原価                           | 円/m <sup>3</sup>                                    | [経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価+附帯事業費)]/有収水量               | 92.0   | 102.5  | 94.9   | ↓    |
|      | 3016                           | 1箇月当たり家庭用料金(10m <sup>3</sup> ) | 円   | 1箇月当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金+10m <sup>3</sup> 使用時の従量料金 | 1,575  | 1,575  | 1,575  | ↓    |
| 3017 | 1箇月当たり家庭用料金(20m <sup>3</sup> ) | 円                              | 1箇月当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金+20m <sup>3</sup> 使用時の従量料金 | 2,730   | 2,730  | 2,730  | ↓      |      |

| 項目<br>分類 | 番号   | 指 標                         | 単 位                | 算 出 方 法                         | 宇 検 村 |      |      | 業 務<br>評 価 |
|----------|------|-----------------------------|--------------------|---------------------------------|-------|------|------|------------|
|          |      |                             |                    |                                 | 16年度  | 17年度 | 18年度 |            |
|          | 3018 | 有収率                         | %                  | (有収水量/給水量) × 100                | 88.0  | 88.0 | 88.0 | ↑          |
|          | 3019 | 施設利用率                       | %                  | (一日平均給水量/一日給水能力) × 100          | 66.2  | 58.2 | 53.7 | ↑          |
|          | 3020 | 施設最大稼働率                     | %                  | (一日最大給水量/一日給水能力) × 100          | 73.6  | 68.4 | 66.2 | ↓          |
|          | 3021 | 負荷率                         | %                  | (一日平均給水量/一日最大給水量) × 100         | 90.0  | 85.0 | 81.1 | ↑          |
| 環境       | 4001 | 配水量1m <sup>3</sup> 当たり電力消費量 | kwh/m <sup>3</sup> | 全施設の電力使用量/年間配水量                 | 0.23  | 0.21 | 0.19 | ↓          |
| 管理       | 5006 | 料金未納率                       | %                  | 年度末未納料金総額/総料金収入額) × 100         | 0     | 0    | 0    | ↓          |
|          | 5007 | 給水停止割合                      | 件/1,000件           | (給水停止件数/給水件数) × 1,000           | 0     | 0    | 0    | ↓          |
|          | 5102 | ダクタイル鋳鉄管・鋼管率                | %                  | [(ダクタイル鋳鉄管延長+鋼管延長)/管路総延長] × 100 | 0     | 0    | 0    | ↑          |

注 1 : 給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合

注 2 : 「業務評価」欄の記号は、「○」は他の指標と併せて総合評価する項目、「↑」は高いほど良い、「↓」は低いほど良い、という内容である。「白抜き記号」は建設課水道係の努力で改善できる指標、「塗りつぶし記号」はほかの要因がないと改善できない指標である。

## 2-2 施設の状況

宇検村の水道施設の状況は、4. 施設整備計画 4-1 水道施設の状況のとおりである。

各水道施設の概要と施設系統図は次のとおりである。

### 【1】簡易水道施設

#### (1) 宇検村北部地区簡易水道事業(湯湾地区)

##### 1) 概要

###### ①取水・導水施設

水源は第1水源と第2水源の2箇所がある。

第1水源については、取水堰から取水した原水は、自然流下により沈砂池を經由し、更に減圧槽で減圧されて凝集沈澱装置へ導水される。

第2水源については、取水堰から取水した原水は、自然流下により減圧槽に導水され、ここで減圧された後、浄水場内の沈澱池へ導水される。

###### ②浄水施設

第1水源については、浄水場内の凝集沈澱装置へ導水された原水は、ここで凝集沈澱処理された後急速ろ過設備でろ過処理され、配水池へ送水される。

薬注処理は、凝集剤を凝集沈澱装置の流入側へ、又、塩素剤を前塩素として凝集沈澱装置の流入側へ、後塩素として急速ろ過設備の流出側へ注入して行う。

第2水源については、浄水場内の沈澱池へ導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

###### ③配水施設

配水池は、 $V=76\text{m}^3$ と $V=72\text{m}^3 \times 2$ 池の計3池があり、総貯水容量は $V=220\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

V P  $\phi 150 \cdot L=707\text{m}$

V P  $\phi 100 \cdot L=372\text{m}$

V P  $\phi 75 \cdot L=1,618\text{m}$

V P  $\phi 50 \cdot L=340\text{m}$

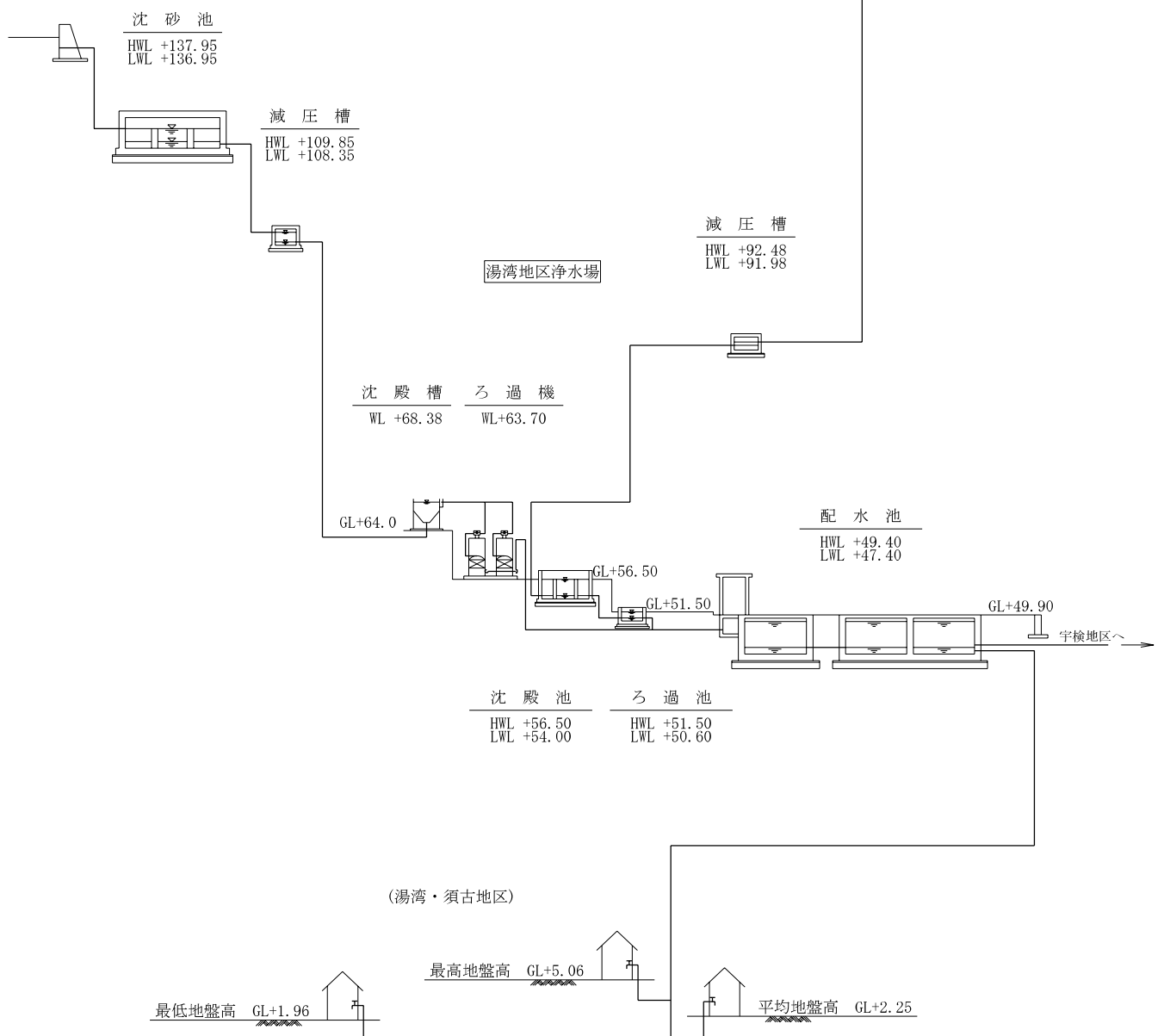
V P  $\phi 40 \cdot L=430\text{m}$

##### 2) 施設系統図 図-1 に示す通りである。

図一 1  
施設系統図(湯湾地区)

湯湾第2水源  
WL +151.35

湯湾第1水源  
WL +147.80



## (2) 宇検村北部地区簡易水道事業(田検地区)

### 1) 概要

#### ①取水・導水施設

水源は河川水で、計画取水量 $Q=90.2\text{m}^3/\text{日}$ (取水可能量 $Q=757\text{m}^3/\text{日}$ )である。

取水堰から取水した原水は、自然流下により浄水場内の沈澱池へ導水される。

導水管はV P  $\phi 75 \cdot L=300\text{m}$ である。

#### ②浄水施設

浄水場内の沈澱池へ導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

#### ③配水施設

配水池は、 $V=40\text{m}^3$ と $V=57\text{m}^3$ の2池があり、総貯水容量は $V=97\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

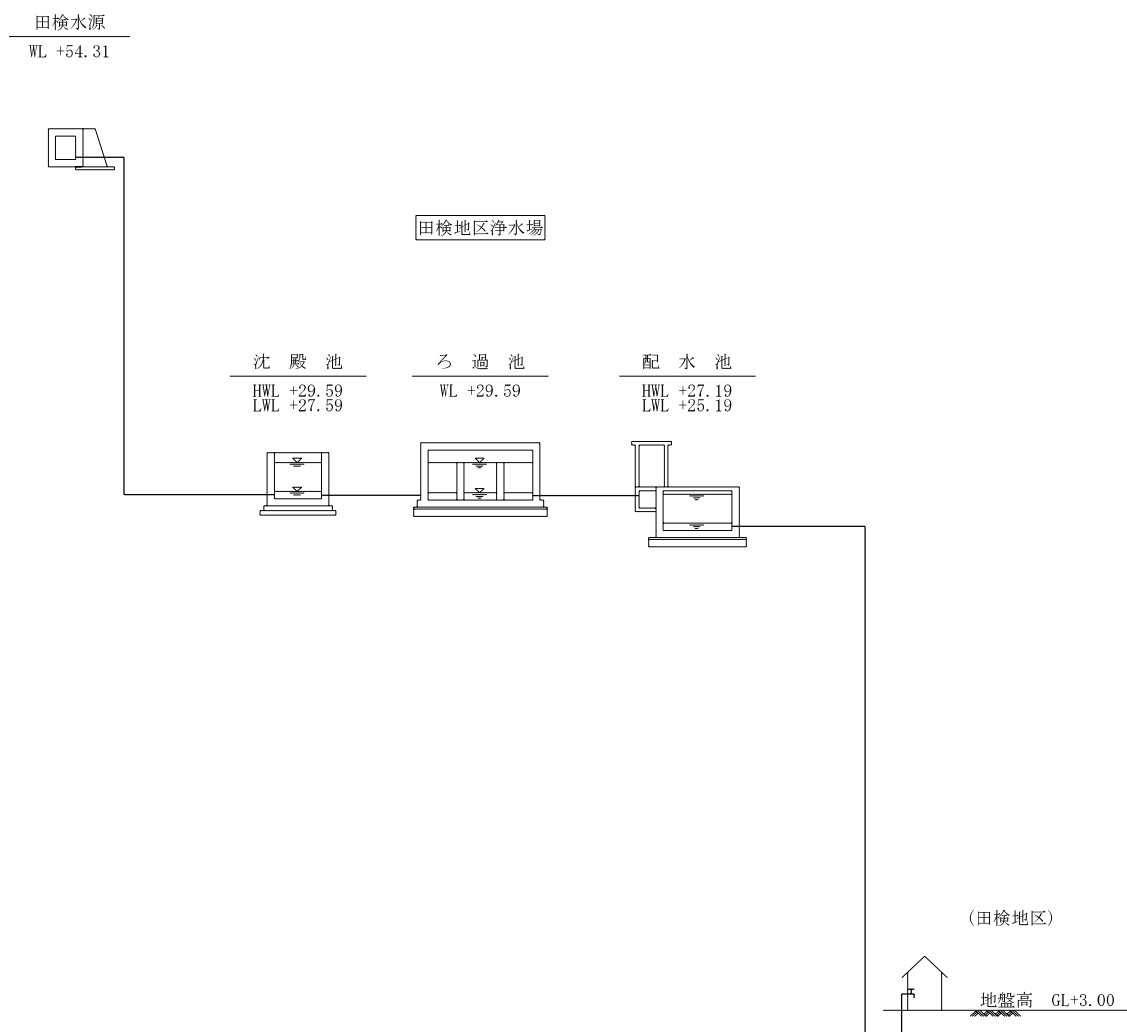
V P  $\phi 75 \cdot L=588\text{m}$

V P  $\phi 25 \cdot L=919\text{m}$

### 2) 施設系統図

図-2に示す通りである。

図-2  
施設系統図(田検地区)



### (3) 宇検村北部地区簡易水道事業(芦検地区)

#### 1) 概要

##### ①取水・導水施設

水源は河川水で、計画取水量 $Q=147.4\text{m}^3/\text{日}$ (取水可能量 $Q=908\text{m}^3/\text{日}$ )である。

取水柵から取水した原水は、自然流下により浄水場内の沈澱池へ導水される。

導水管はV P  $\phi 75 \cdot L=373\text{m}$ である。

##### ②浄水施設

浄水場内の沈澱池へ導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

##### ③配水施設

配水池は1池で貯水容量は $V=82\text{m}^3$ である。又、減圧施設として減圧槽 $V=3.5\text{m}^3$ が設置されている。

配水管は次の通りである。

V P  $\phi 100 \cdot L=2,052\text{m}$

V P  $\phi 75 \cdot L=511\text{m}$

V P  $\phi 50 \cdot L=318\text{m}$

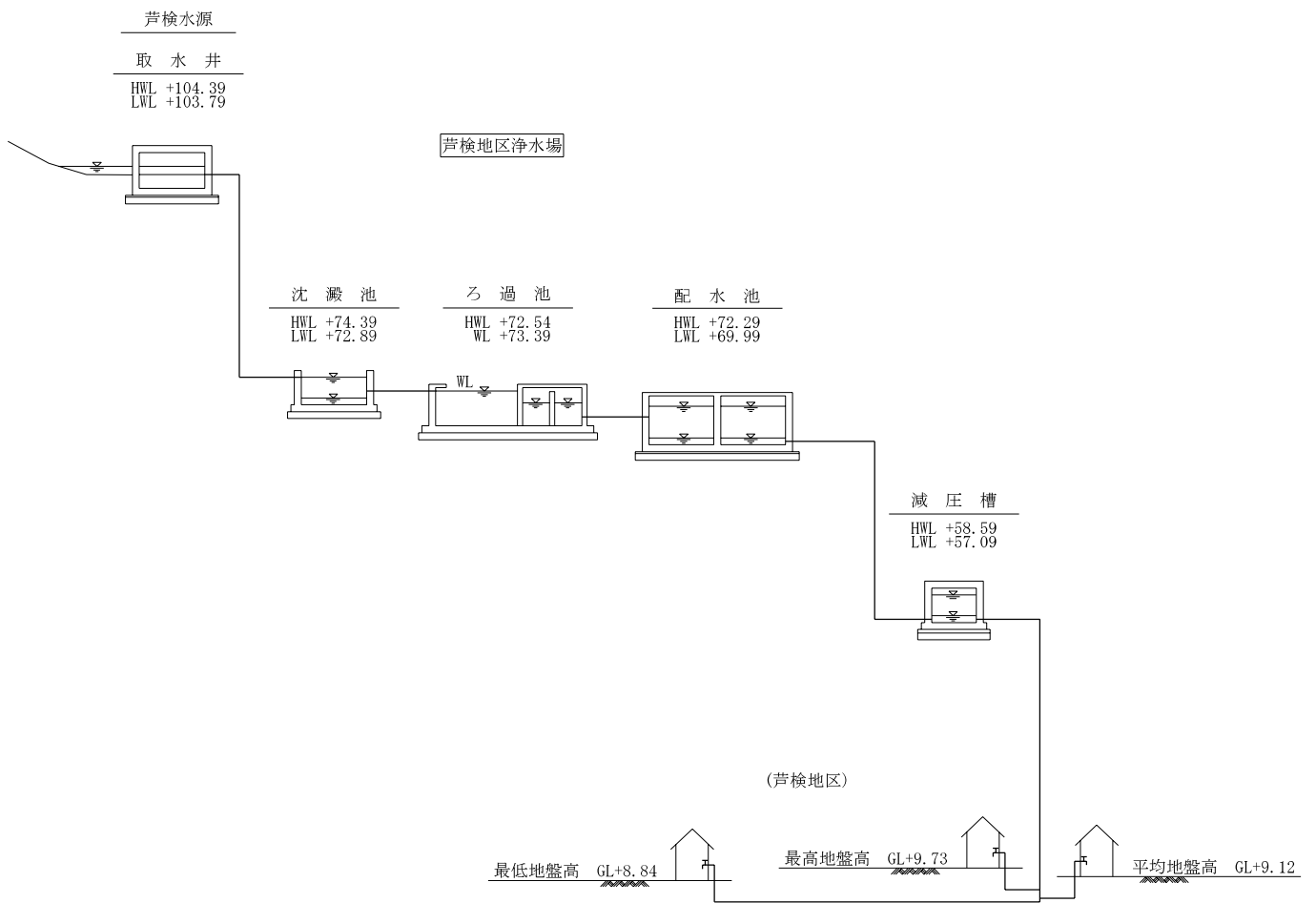
V P  $\phi 30 \cdot L=507\text{m}$

#### 2) 施設系統図

図-3に示す通りである。



図-3  
施設系統図(芦検地区)



## (4) 宇検村北部地区簡易水道事業(生勝地区)

### 1) 概要

#### ①取水・導水施設

水源は河川水で、計画取水量 $Q=56.1\text{m}^3/\text{日}$ (取水可能量 $Q=152\text{m}^3/\text{日}$ )である。

ミニダムから取水した原水は、自然流下により沈砂池を經由して浄水場内の前処理ろ過設備へ導水される。

導水管はV P  $\phi 75 \cdot L=229\text{m}$ である。

#### ②浄水・送水施設

浄水場内の前処理ろ過設備へ導水された原水は、前処理ろ過設備及び急速ろ過設備でろ過処理された後、浄水池へ導水される。

薬注処理は、凝集剤を前処理ろ過設備の流入側へ、又、塩素剤を前塩素として前処理ろ過設備の流入側へ、後塩素として浄水池へ注入して行う。

浄水池内の浄水は、ポンプ圧送により配水池へ送水される。

送水管はV P  $\phi 50 \cdot L=90\text{m}$ である。

#### ③配水施設

配水池は1池で貯水容量は $V=108\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

V P  $\phi 100 \cdot L=2,096\text{m}$

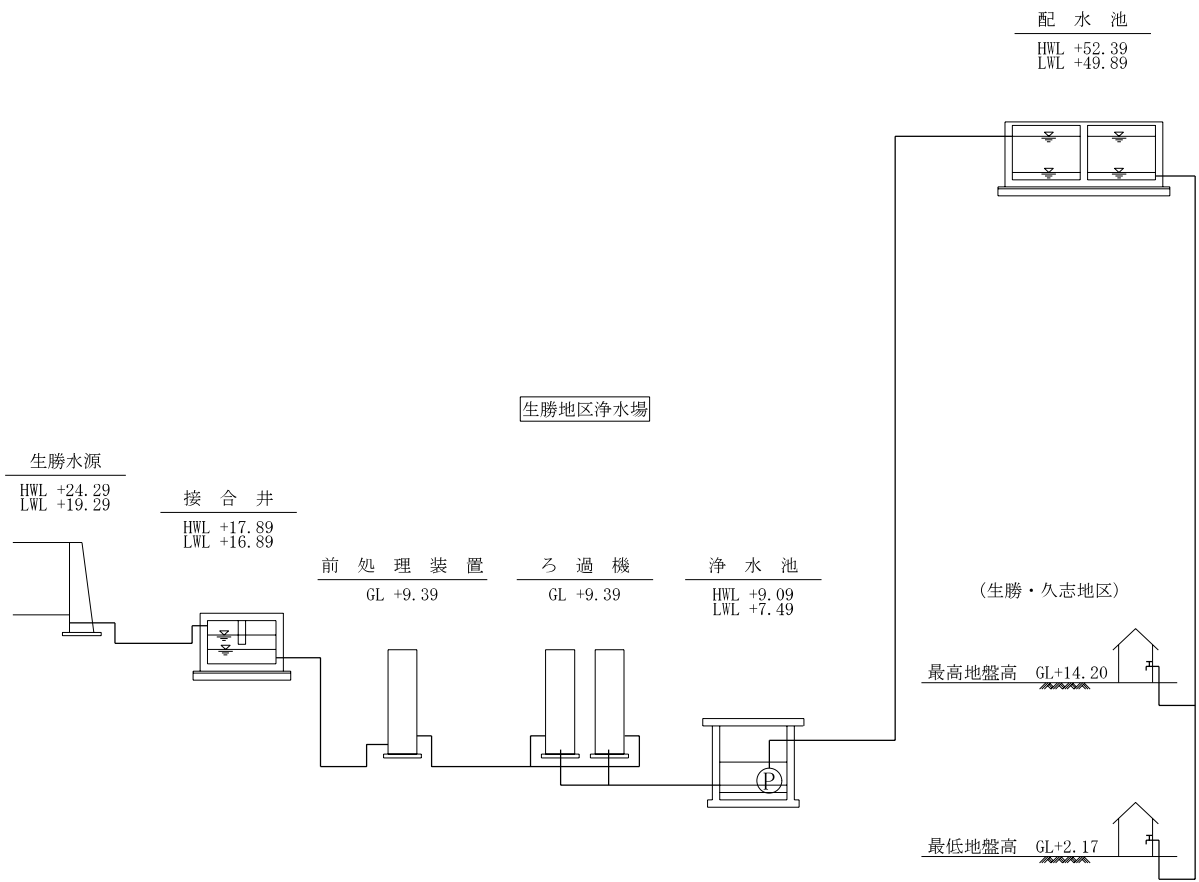
V P  $\phi 75 \cdot L=803\text{m}$

V P  $\phi 50 \cdot L=605\text{m}$

### 2) 施設系統図

図-4に示す通りである。

図-4  
施設系統図(生勝地区)



## (5) 宇検村北部地区簡易水道事業(宇検地区)

### 1) 概要

#### ①取水・導水施設

水源は河川水で、第1水源及び第2水源の2箇所があり、第1水源は計画取水量 $Q=10\text{m}^3/\text{日}$ (取水可能量 $Q=20\text{m}^3/\text{日}$ )又、第2水源は計画取水量 $Q=20\text{m}^3/\text{日}$ (取水可能量 $Q=40\text{m}^3/\text{日}$ )である。

第1水源のミニダム及び第2水源の取水堰より取水した原水は接合柵で合流した後、浄水場内の沈澱池へ導水される。

導水管はVP  $\phi 75 \sim \phi 50 \cdot L=651\text{m}$ である。

#### ②浄水施設

浄水場内の沈澱池へ導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

当地区は、水源枯渇が進行し、不足浄水量は水源水量の豊富な湯湾地区簡易水道の浄水で補う計画である。

#### ③配水施設

配水池は、 $V=49\text{m}^3$ と $V=14\text{m}^3$ の2池があり、総貯水容量は $V=63\text{m}^3$ である。湯湾地区簡易水道からの浄水は $V=14\text{m}^3$ で受水する。

配水管は次の通りである。

VP  $\phi 75 \cdot L=2,519\text{m}$

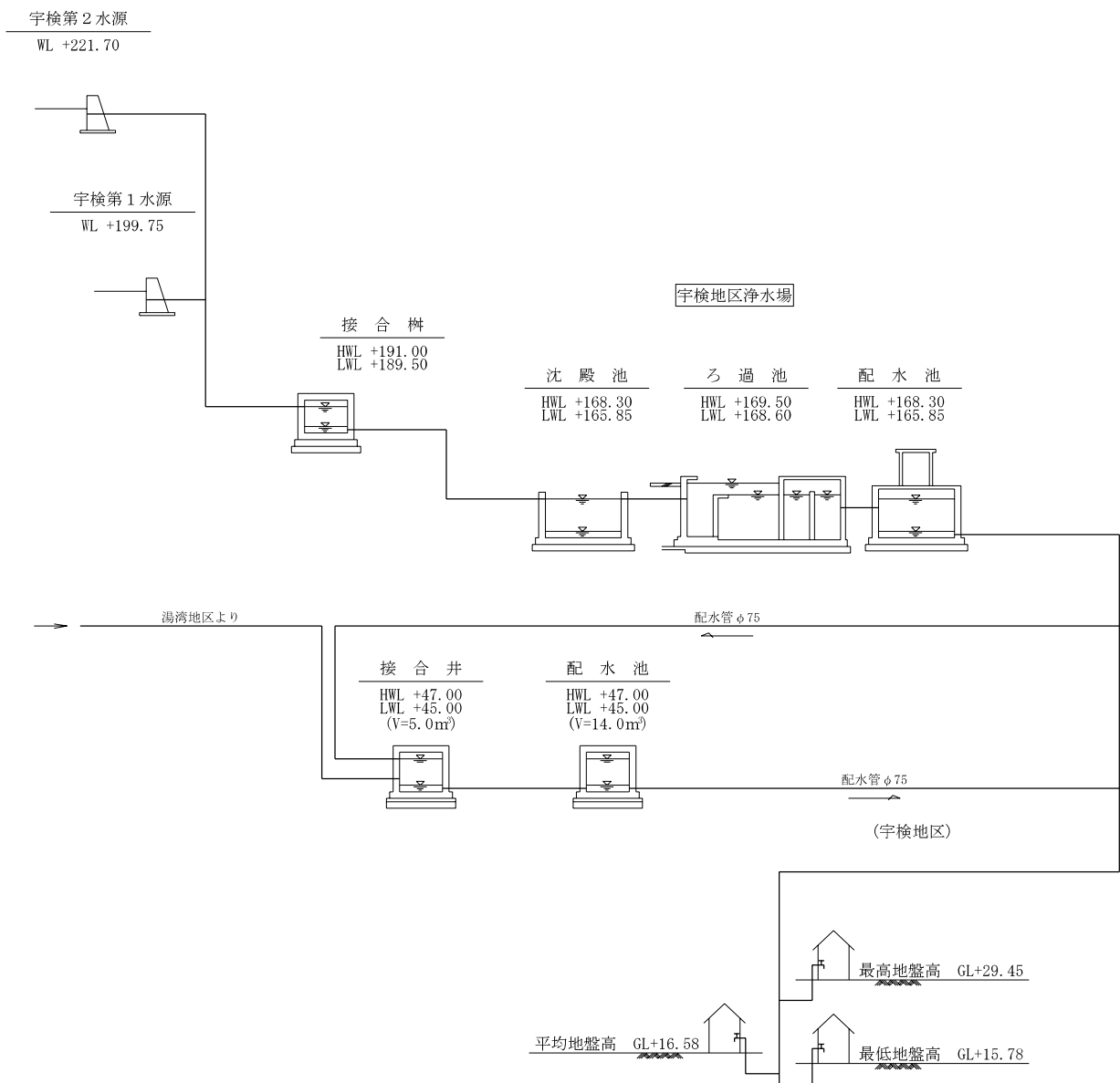
VP  $\phi 50 \cdot L=173\text{m}$

VP  $\phi 25 \cdot L=616\text{m}$

### 2) 施設系統図

図-5に示す通りである。

図-5  
施設系統図(宇検地区)



## (6) 部連地区簡易水道事業

### 1) 概要

#### ①取水・導水施設

水源は河川水で、計画取水量 $Q=31\text{m}^3/\text{日}$  (取水可能量 $Q=120\text{m}^3/\text{日}$ )である。

取水堰から取水した原水は、自然流下により浄水場内の沈澱池へ導水される。

導水管はV P  $\phi 50 \cdot L=118\text{m}$ である。

#### ②浄水施設

浄水場内の沈澱池へ導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

#### ③配水施設

配水池は、1池で貯水容量は $V=25.5\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

A C P  $\phi 75 \cdot L=621\text{m}$

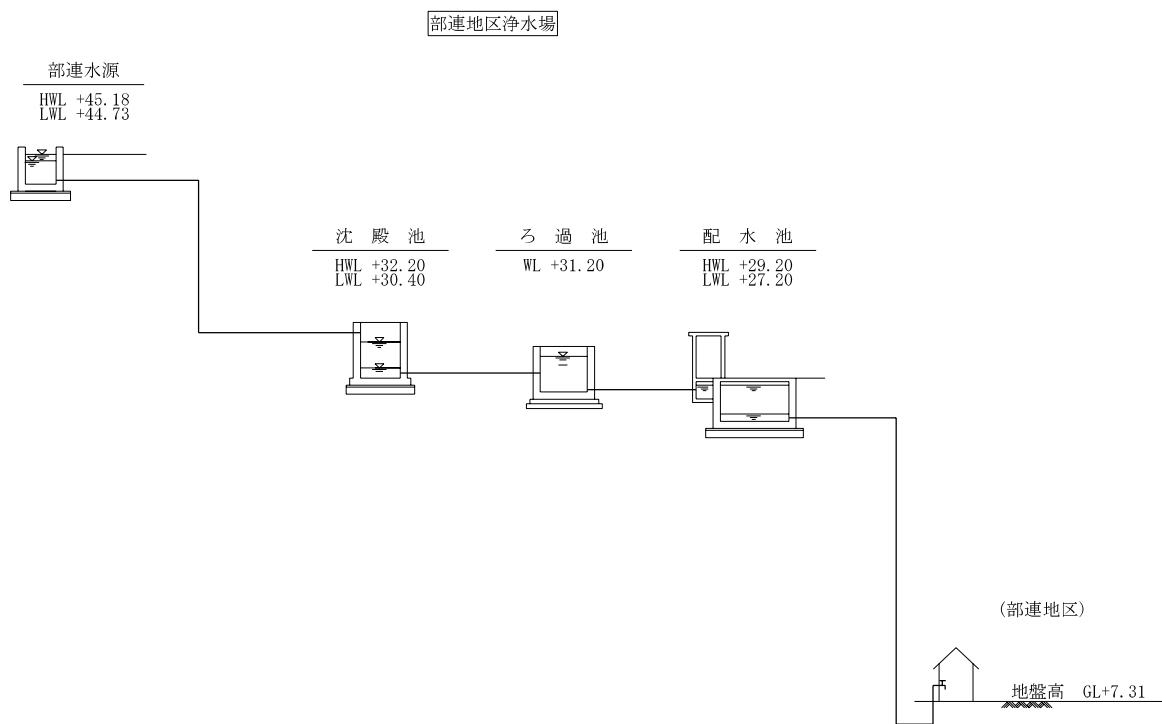
V P  $\phi 50 \cdot L=79\text{m}$

V P  $\phi 40 \cdot L=330\text{m}$

### 2) 施設系統図

図-6に示す通りである。

図-6  
施設系統図(部連地区)



## (7) 名柄地区簡易水道事業

### 1) 概要

#### ①取水・導水施設

水源は河川水で、計画取水量 $Q=66\text{m}^3/\text{日}$  (取水可能量 $Q=150\text{m}^3/\text{日}$ )である。

取水堰から取水した原水は、自然流下により沈砂池を経由して浄水場内の前処理ろ過設備へ導水される。

導水管はV P  $\phi 75 \cdot L=657\text{m}$ である。

#### ②浄水・送水施設

浄水場内の凝集沈澱装置へ導水された原水は、ここで凝集沈澱処理された後、急速ろ過設備でろ過処理され、配水池へ送水される。

薬注処理は、凝集剤を凝集沈澱装置の流入側へ、又、塩素剤を前塩素として凝集沈澱装置の流入側へ、後塩素として急速ろ過設備の流出側へ注入して行う。

#### ③配水施設

配水池は1池で貯水容量は $V=60\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

V P  $\phi 75 \cdot L=1,096\text{m}$

V P  $\phi 50 \cdot L=943\text{m}$

V P  $\phi 30 \cdot L=712\text{m}$

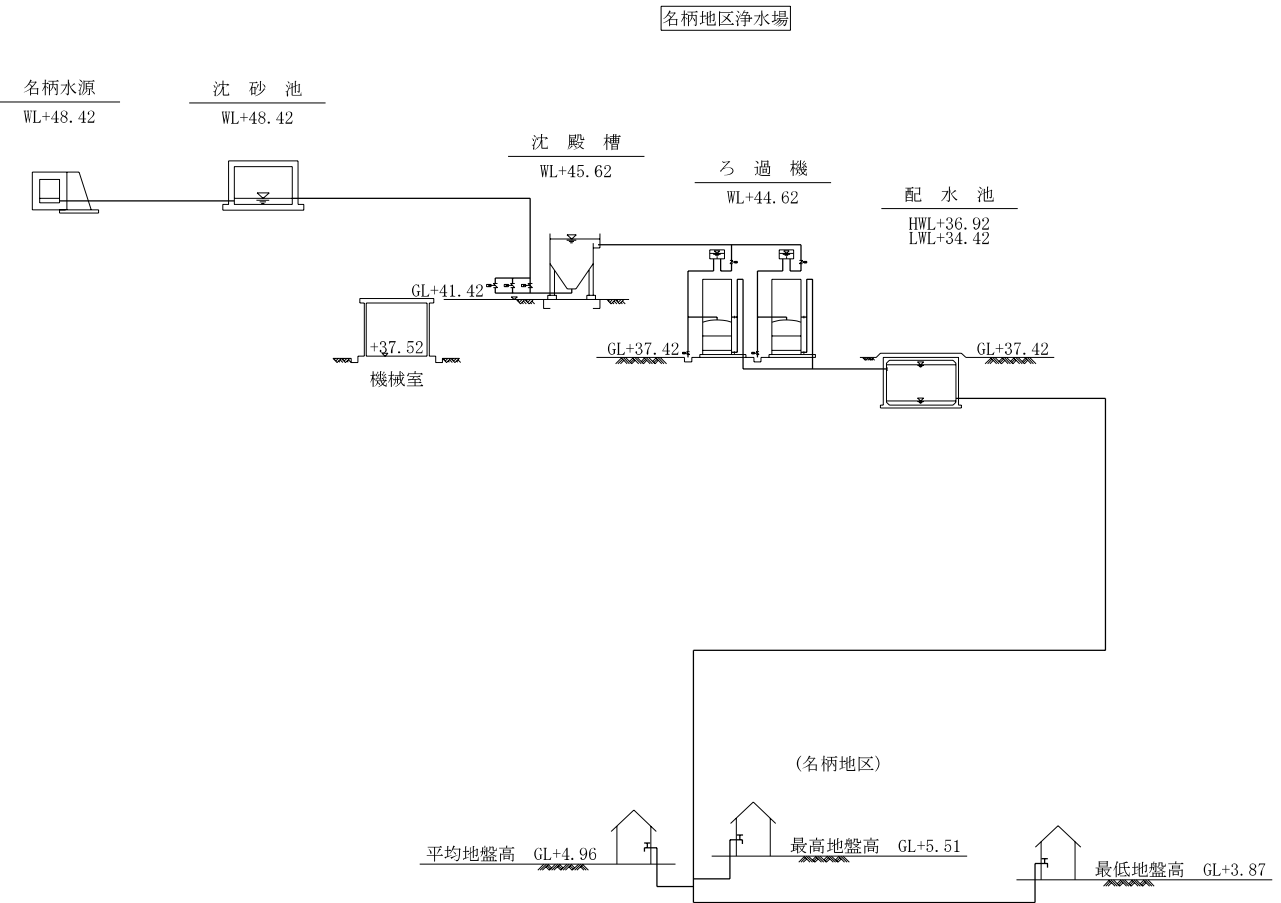
### 2) 施設系統図

図-7に示す通りである。



図-7

施設系統図(名柄地区)



## (8) 平田地区簡易水道事業

### 1) 概要

#### ①取水・導水施設

水源は河川水で、計画取水量 $Q=58\text{m}^3/\text{日}$  (取水可能量 $Q=150\text{m}^3/\text{日}$ )である。

取水堰から取水した原水は、自然流下により浄水場内の沈澱池へ導水される。

導水管はV P  $\phi 40 \cdot L=579\text{m}$ である。

#### ②浄水施設

浄水場内の沈澱池へ導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

#### ③配水施設

配水池は、1池で貯水容量は $V=18\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

A C P  $\phi 75 \cdot L=165\text{m}$

V P  $\phi 50 \cdot L=180\text{m}$

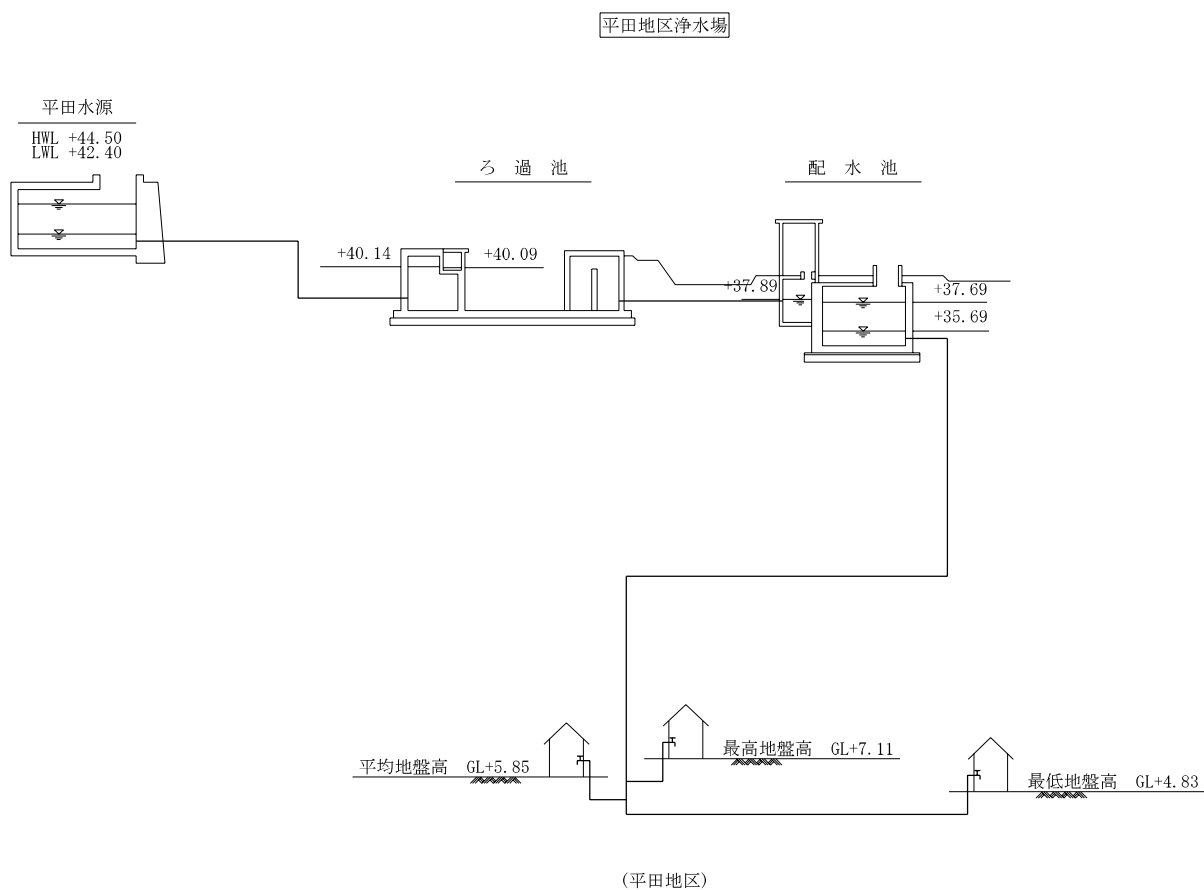
V P  $\phi 30 \cdot L=168\text{m}$

V P  $\phi 25 \cdot L=863\text{m}$

### 2) 施設系統図

図-8に示す通りである。

図-8  
施設系統図(平田地区)



## (9) 阿室地区簡易水道事業

### 1) 概要

#### ①取水・導水施設

水源は河川水で、計画取水量 $Q=34\text{m}^3/\text{日}$  (取水可能量 $Q=163\text{m}^3/\text{日}$ )である。

取水堰から取水した原水は、自然流下により浄水場内の沈澱池へ導水される。

導水管はV P  $\phi 75 \cdot L=860\text{m}$ である。

#### ②浄水施設

浄水場内の沈澱池へ導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

#### ③配水施設

配水池は、1池で貯水容量は $V=24\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

V P  $\phi 75 \cdot L=620\text{m}$

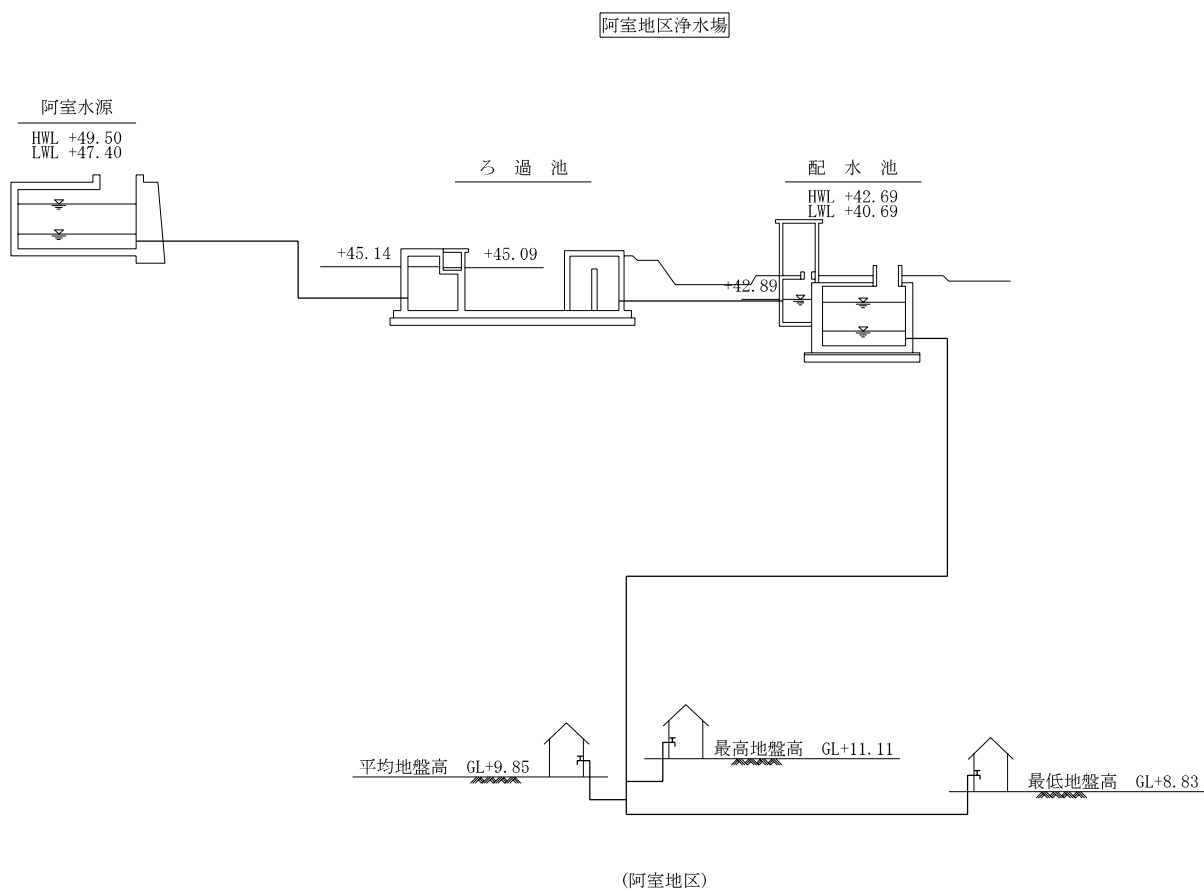
V P  $\phi 50 \cdot L=159\text{m}$

V P  $\phi 25 \cdot L=167\text{m}$

### 2) 施設系統図

図-9に示す通りである。

図-9  
施設系統図(阿室地区)



## 【2】飲料水供給施設

### (1) 新小勝地区飲料水供給施設事業

#### 1) 概要

##### ①取水・導水施設

水源は河川水で、計画取水量 $Q=27\text{m}^3/\text{日}$ (取水可能量 $Q=160\text{m}^3/\text{日}$ )である。

取水堰から取水した原水は、自然流下により浄水場内の沈澱池へ導水される。

導水管はV P  $\phi 50 \cdot L=90\text{m}$ である。

##### ②浄水施設

浄水場内の沈澱池へ導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

##### ③配水施設

配水池は、1池で貯水容量は $V=36\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

V P  $\phi 75 \cdot L=625\text{m}$

V P  $\phi 50 \cdot L=1,078\text{m}$

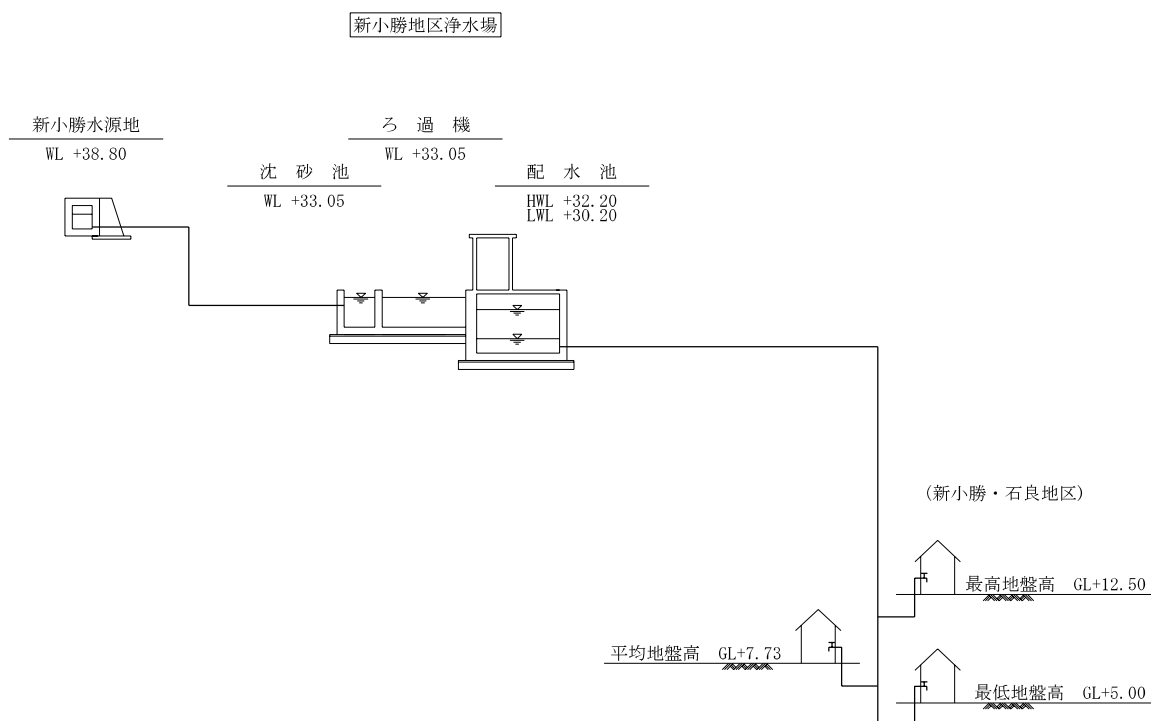
V P  $\phi 30 \cdot L=184\text{m}$

V P  $\phi 20 \cdot L=399\text{m}$

#### 2) 施設系統図

図-10に示す通りである。

図-10  
施設系統図(新小勝地区)



## (2) 佐念地区飲料水供給施設事業

### 1) 概要

#### ①取水・導水施設

水源は河川水で、計画取水量 $Q=14.3\text{m}^3/\text{日}$ (取水可能量 $Q=290\text{m}^3/\text{日}$ )である。

取水堰から取水した原水は、自然流下により浄水場内の沈澱池へ導水される。

導水管はV P  $\phi 30 \cdot L=542\text{m}$ である。

#### ②浄水施設

浄水場内の沈澱池へ導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

#### ③配水施設

配水池は、1池で貯水容量は $V=11\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

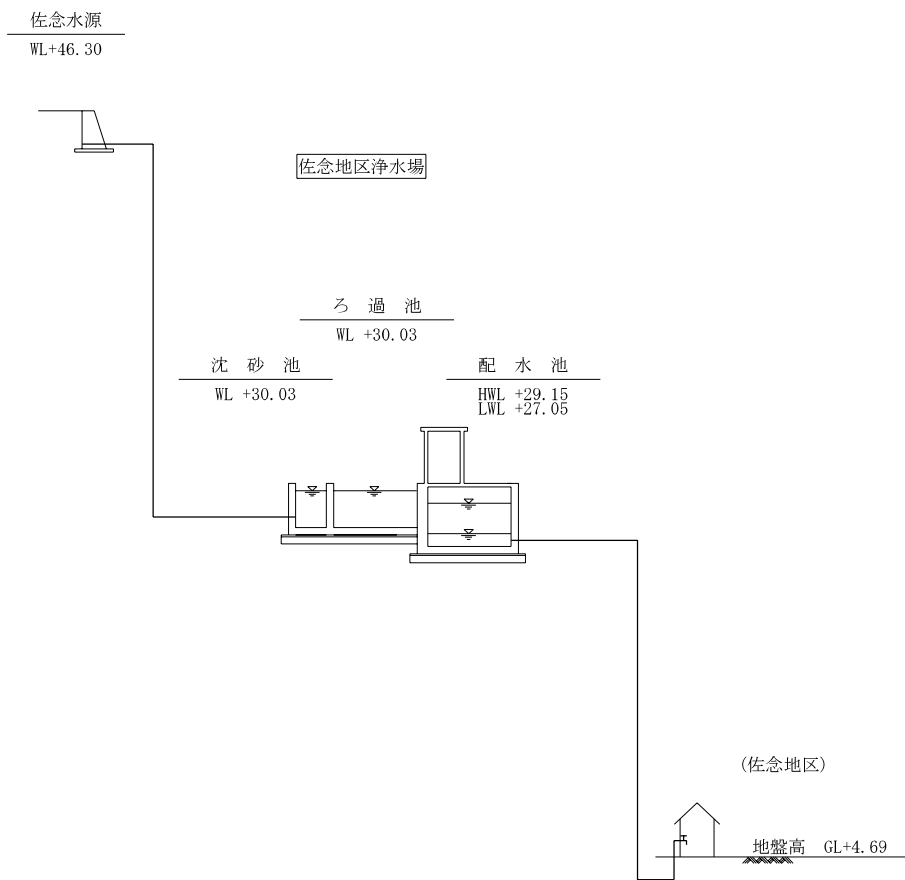
V P  $\phi 50 \cdot L=410\text{m}$

### 2) 施設系統図

図-11に示す通りである。



図-11  
施設系統図(佐念地区)



### (3) 屋鈍地区飲料水供給施設事業

#### 1) 概要

##### ①取水・導水施設

水源は河川水と深層地下水の2箇所がある。

河川水は計画取水量 $Q=5\text{m}^3/\text{日}$ (取水可能量 $Q=67\text{m}^3/\text{日}$ )、深層地下水は計画取水量 $Q=19.5\text{m}^3/\text{日}$ (取水可能量 $Q=162\text{m}^3/\text{日}$ )である。

河川水については、取水堰から取水した原水は、自然流下により浄水場内の沈澱池へ導水される。

導水管はVP  $\phi 40 \cdot L=460\text{m}$ である。

深層地下水については、深井戸用水中渦巻ポンプにより取水を行う。

##### ②浄水・送水施設

河川水については、浄水場内の沈澱池に導水された原水は、沈澱処理された後、緩速ろ過池へ導水される。ここでろ過処理されたろ過水は、配水池に併設されている受水槽へ導水され、ここで滅菌処理された後、配水池へ送水される。

深層地下水については、水源地で薬注ポンプにより取水ポンプと連動させて送水管に薬液を注入し滅菌処理を行う。

送水管はVP  $\phi 50 \cdot L=124\text{m}$ である。

##### ③配水施設

配水池は、 $V=12\text{m}^3$ と $V=42\text{m}^3$ の2池があり、総貯水容量は $V=54\text{m}^3$ である。

配水管は次の通りである。

VP  $\phi 100 \cdot L=317\text{m}$

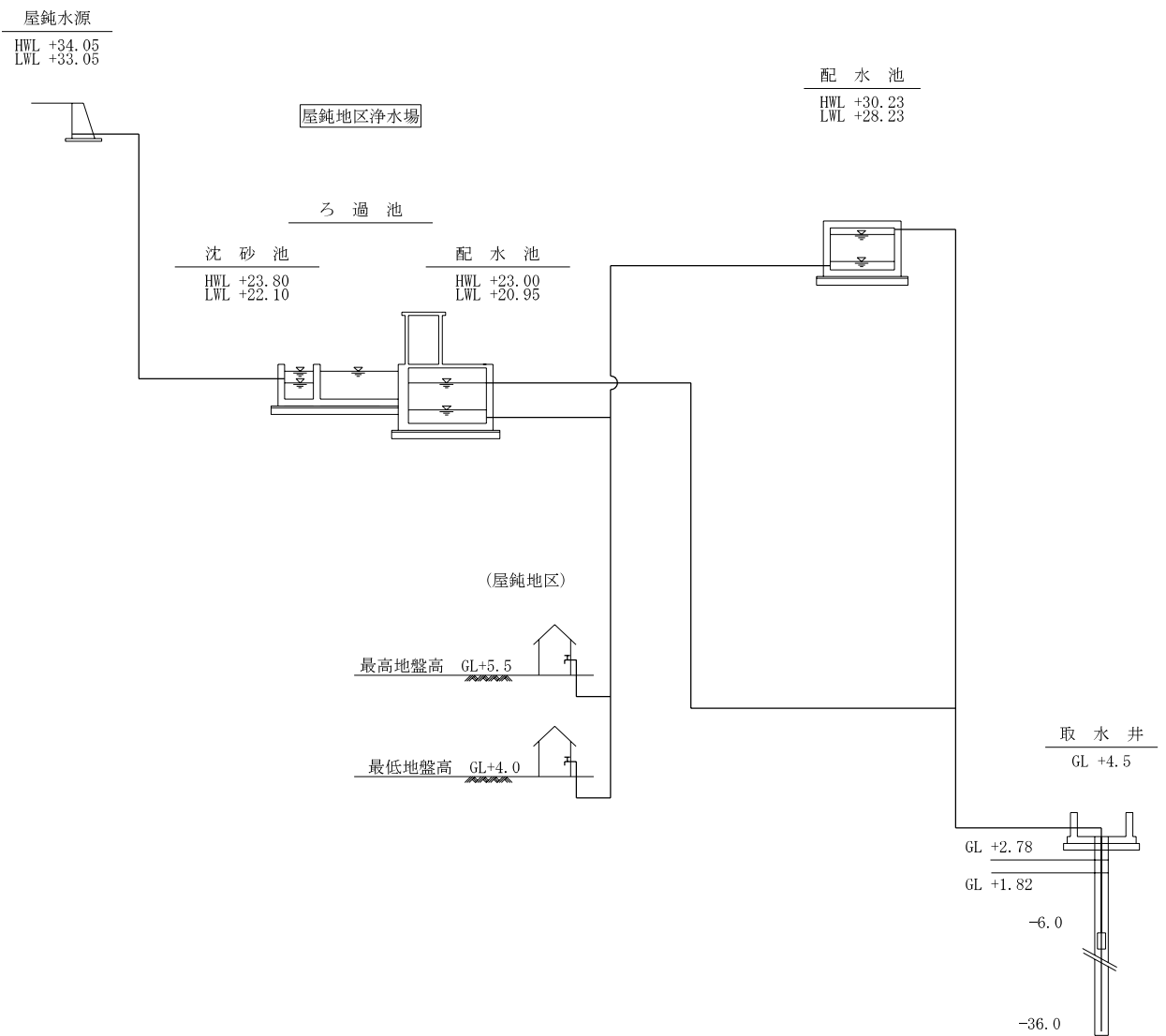
VP  $\phi 75 \cdot L=184\text{m}$

VP  $\phi 50 \cdot L=413\text{m}$

#### 2) 施設系統図

図-12に示す通りである。

図-12  
施設系統図(屋鈍地区)



## 2-3 水需要見通し

### (1) 給水人口等の動向

現在、給水普及率は100%で、行政区域内人口(=給水区域内人口=給水人口)は2,331人(平成10年)から2,066人(平成19年)と10年間で265人減少している。

#### 1) 行政区域内人口(=給水区域内人口=給水人口)の見通し

宇検村の人口は、過去10年間の動向をみると毎年減少傾向が続いている。

過去10年の人口動態により10年後(平成29年度)の給水人口を推計すると1,691人となる。

なお、上位計画である「第4次宇検村長期振興計画」においては、努力目標値を加味して減少傾向を抑え、平成24年度の人口を2,300人と設定しているが実現は難しい。

### (2) 給水量等の動向

平成18年度の1日平均有収水量、1日平均給水量の実績は、それぞれ750m<sup>3</sup>/日、850m<sup>3</sup>/日前後である。

過去10年間の推移を見ると減少傾向にある。

#### 1) 有収水量の見通し

最近の傾向は、給水人口の減少及び節水意識の高揚や節水機器の普及等による1人当たりの生活用水の減少などにより有収水量が減少する傾向にある。

#### 2) 1日平均給水量の見通し

平成18年度の有収率は88%であり、90%を目標にすると平成29年度の1日平均給水量は690m<sup>3</sup>/日前後と推計される。

#### 3) 1日最大給水量の見通し

1日最大給水量は有収水量と同様に減少傾向にある。負荷率が平均69%で推移するとした場合、平成29年度の1日最大給水量は1,000m<sup>3</sup>/日前後と推計される。

### (3) 行政区域内の需要見込み

村の長期振興計画に給水需要が見込まれる具体性のある開発計画がないことから、将来の給水量の増加は見込まない。